産科・婦人科

●スタッフ（2021 年10月1日現在）

診療科長　西　洋孝
医局長　小野　理貴
病棟医長　小野　政徳
　　山本　阿紀子
外来医長　小島　淳哉

医師数　常勤　33 名
　　非常勤　13 名

●診療科の特色・診療対象疾患

当科は、周産期医学 、生殖医学、婦人科腫瘍学、女性医学などの疾患分野が多岐にわたり、幅広い診療を行っております。

周産期部門では、近隣施設からのハイリスク産科症例を極力収容するように努めており、より一層地域の産科医療に貢献すべく新病院開院に伴い MFICU の開設を致しました。正常妊娠のみならず、さまざまな合併症を有するハイリスク妊婦に対しても他科と連携し厳重な管理を行い、分娩時は小児科医とも密接な連携をとり母児ともに安全な分娩を心がけています。遺伝カンセリングや母体血胎児染色体検査（NIPT）を始め各種出生前診断を行っています。また、安全に配慮したうえで無痛分娩の取扱いを開始し分娩数が増加しています。その他にも、助産師外来や出産準備クラスを設置し妊婦さんやご家族が安心して分娩に臨める環境を整備しています。

生殖医学部門では、新病院開院時から、独立したリプロダクションセンターを開設し、不妊・不育症で苦しんでいるカップルに対して丁寧で高度な生殖補助医療を提供しています。さまざまな不妊の原因を内視鏡検査を含め多角的に検索します。人工授精や体外受精・顕微授精・凍結胚移植といった高度生殖医療（生殖補助医療）は常時受け付けております。

婦人科部門では、他施設では治療が困難な悪性腫瘍症例に対しても、根治的拡大手術を行っています。

また低侵襲手術も積極的に行っており、従来の腹腔鏡下手術のみならず 先進的なロボット支援手術を婦人科領域で先駆けて導入し、国内ではトップクラスの症例数を誇っています。

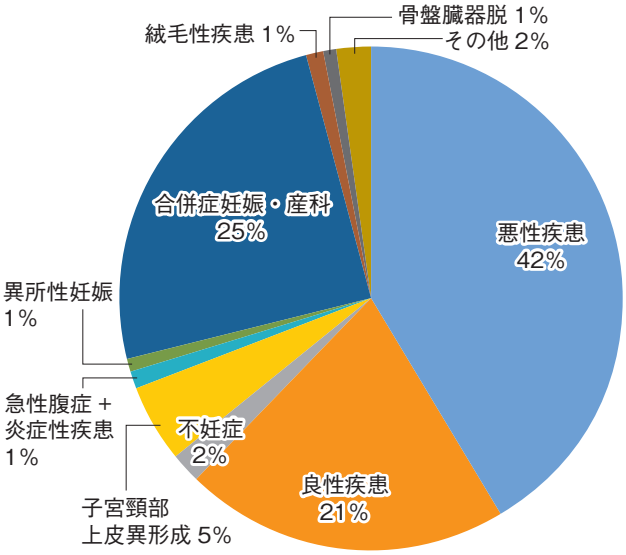
その他、女性医学系疾患である骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨腟固定術や、子宮筋腫や周産期出血に対する子宮動脈塞栓術にも積極的に取り組んでいます。

●診療体制と実績

1）外来診療体制と実績

午前中は産科外来 1 診、婦人科外来 3 診の体制で診療しています。午後は婦人科では、骨盤臓器脱外来、子宮鏡検査外来、コルポスコープ外来、腫瘍外来、子宮頸癌細胞診外来、EUD（子宮内膜症および良性子宮疾患）外来、産科では妊婦超音波外来やハイリスク外来など特殊外来を中心に展開しています。またリプロダクションセンターでは毎日午前・午後ともに 1 診制で診療を行っています。近年は近隣地域ばかりではなく他道府県からの紹介や、アジアなど諸外国からも受診される患者さんが増えてきています。

2）入院診療体制と実績

7 階の周産期センターで年間約 750 件の分娩、14 階 A の女性専用病棟で約 900 件の婦人科手術や化学療法などを行っています。婦人科領域では良性疾患はもとより悪性疾患についても、安全性や根治性を重視したうえで、整容性に優れ負担の少ない腹腔鏡下手術やロボット支援手術を積極的に行うことを心掛けています。進行卵巣がん症例に対する生命予後を改善する目的での根治的拡大手術などの他施設では行うことが難しい手術療法や、抗がん剤治療、放射線治療といったがん治療の三本柱をバランスよく組み合わせ、質の高い治療を行うことを心掛けています。また、近年の高齢化社会で注目されている QOL 疾患である骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨 腟固定術など負担の少ない先進的な治療にも取り組んでいます。

入院における診療疾患割合